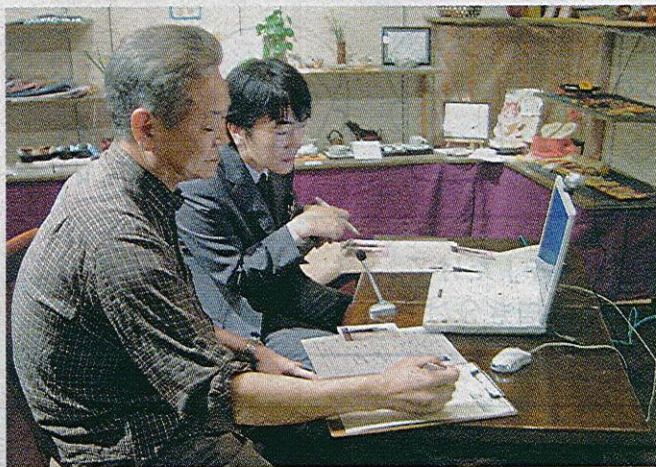


パソコンの画面に映った中国人の大学生が、精いっぱい笑顔を見せる。インターネットのテレビ電話でつながる先は中国・瀋陽市。マイクに向かって採用担当者が質問すると、画面の学生は日本語で答える。中国の大学生を採用する面接のひとつまだ。

廿日市市宮島町の旅館、弁天の宿いつくしは昨年8月、このような面接を経て、中国人女性を採用した。「中国からの観光客は増える。どこよりも早く受け入れ態勢を」と西村浩支配人(43)は狙いを説明する。採用は団体客の誘致につながった。「英語と韓国語も話せるので幅広く外国人の接客にも活躍している」と喜ぶ。仲介したのはトータルビ

## 中国人大学生の日本採用を仲介

# 高い語学能力 観光業で需要



テレビ電話による面接で、中国にいる学生と話をする弁天の宿いつくしみの西村浩支配人(左)と中国からの観光客の誘致に力を入れるなら、必ずニーズは盛り返す」

(廿日市市)

ルド(広島市安佐南区)。日本人の技術者を工場に紹介する事業を手掛けていたが、2008年秋のリーマン・ショックで仕事が激減し、中国の学生の紹介に軸を移した。

宮島の旅館やホテルを中心に売り込みを開始。要望に応じて学生を選び、テレビ電話で面接してもらう。これまで24人を紹介した。同社は猪社長と従業員4人。「利幅は小さいが、手間がかかる分、大手は参入しにくい」とみる。

就職の仲介が主力のライフサイズ(広島市中区)は09年秋、中国の大学生の紹介を始めた。これまで北京だけだったが、4月から上海と大連の学生の紹介も始めた。

きつかけは、猪善晴社長(33)が中国を訪れた時、瀋陽の大学教授との出会いだった。「優秀な学生でも就職先がない。一度学生を見てくれないか」。教授の求めに応じ、現地で28人の学生と面談した猪社長は「ここまでレベルが高いのか」とショックを受けた。

ただ、福島第1原発の事故の影響は大きい。会社を辞めたケースはないものの、内定者6人のうち3人が入社を辞退した。親の説得に苦労している人もいるという。

原発事故の影響はあっても、日本企業の人気は根強い。植田将嗣社長(36)は「時期さえ合えば、あらゆる人材の要望に応えられる」と自信を示す。昨年は同社を通じて、自動車販売の広島マツタ(同)に3人が正社員として入った。

それでも「原発事故の影響が収まれば、また動き出す」と猪社長はみる。「地域が外国人観光客の誘致に力を入れるなら、必ずニーズは盛り返す」と確信した。

それでも「原発事故の影響が収まれば、また動き出す」と猪社長はみる。「地域が外国人観光客の誘致に力を入れるなら、必ずニーズは盛り返す」と確信した。

広島県出身者のUターン先を見据える。(漆原毅)